

## 問 6-2 に対する主な回答 （高齢者食の自立支援サービス関係）

- 高齢の方は自分で調べることが難しいと思うし、民間ではどこを信用したらいいか、また詐欺ではないか見抜くことが難しいと感じる。
- 行政・民間、それぞれのバランスが大事と思う。それに行政は他のことでも忙しい。専門性は民間の方が期待できる。
- 民間では、コスト優先で弁当内容がコストに合わせた貧弱になる可能性が高くなると思う。
- 行政によるサービスの方が安心感がある。
- 今後人口に対して高齢者の割合が高くなるが、わざわざ行政で支援する必要は無いと考える。安否確認も配食サービスも民間のサービスで十分と考える。
- 民間のものは料金が高そうだし、不安が多い。
- 民間企業等でできることは民間企業等に任せつつ、行政はその費用負担を抑える働きかけを行うことが良いと考える。
- 「食」が関係しているため、充実させることに限界があるように思う。アレルギー対応など、きめ細かくサービスを提供するのは行政では難しいのではないだろうか。
- 民間だとどこに頼んだら良いかわからず、頼まない人が多いと思う。
- 行政のサービス提供は良いが、どこまでやってもきりがないので、民間の行っているところを補完し、サービスから落ちこぼれが出ないようにするのが良いと思う。
- 一般論としては、営利を目的とする民間事業のみではカバーしきれない高齢者が発生しがちであり、高齢者福祉という公益性の高い事業に当てはまる配食サービスは維持されるべきと考える。
- 民間企業では利益優先になることが心配。
- 行政で福祉サービスを行うという事はますます税金が使われるという事で、今でも現役世代の税負担がきついのにもますます増えることへの不安と不満がある。
- すべてが優良で善良な民間企業であれば 民間に任せてもいいかもしれないが、そうではないところも多いと思うので、行政も関わり、監視するなり、基準を示すなりすべきだと思う。
- 民間では個人情報漏洩する危険があるように思う。
- 高齢者食の自立支援サービス（安否確認など）は民間企業で行なっている事業と思っていた。
- 行政は民間企業への指導、管理などの水準で十分だと思う。
- 人口減少社会に対応するためには税収の確保が必要なので、民間企業のサービスを利用することで企業の収益にもなり雇用問題にも良い影響を及ぼすと思う。
- 事業の柔軟性・機動性は民間事業者に任せたほうが有利。
- 食に関しては民間企業のサービスにたどり着けない人もいる。続けるべきでは。
- これからどんどん高齢者が増えるのだから、その分、予算も莫大になっていく。それを現役世代の負担でやるのか。宮城県は出生率が他の自治体に比べてかなり低いのだから、行政サービスを充実させるところが間違ってる。高齢者を優遇して、それに伴う成果は何なのか。
- 配食サービスというよりも、安否確認が重要であると考えます。民間との連携が確実に取れるのか。その点において、大前提として行政が行い、カバーしきれない点を民間に委ねるという順番が良いと考える。

- 民間企業によるサービスにどんなものがある、行政サービスの違いが判らないので判断できない。
- 行政サービスのために民間企業が倒産するのは良くない。
- できるだけ民間の手を借りたほうが、市職員の負担が減るし、歳出の削減にもつながると思う。また、いくらかでも民間の仕事が増えれば、雇用率や所得の増加が見込まれると思う。
- 行政の場合、硬直化してしまい、サービスが悪くなっていく気がする。
- マイナンバーの導入で、納税額や年金の支給額等行政は把握しやすくなっていると思われるので、そこを活用して本当にそのようなサービスが必要な人には提供してほしい。民間企業等のサービスはお金がある人しか受けられないと思う。
- 現在の物価高により、一般市民の生活は困窮している。今以上に行政が手厚いサービスを提供すべきだと思う。
- 行政の関わりで、色々な困り事などで支援の連携がはかれそうだから。
- 既存の民間企業では追いつかないほど需要があるのであれば必要と考える。
- すべて税金で賄うようになると民間企業の経営を圧迫しかねない。利用者（高齢者）も年金を受け取っており、適正価格であれば、民間企業のサービスを利用する方が良い。生活が厳しく配食のサービスを受けたいという生活者については、生活保護の申請をされて別途支援をされる方がよいと思う。
- 民間でも良いが、高額になると支払いがきつくなるので、ある程度行政の補助金が必要だと思う。
- 民間でも充分に対応できると思うが、価格や選択肢を広げるため、また自身で情報を取得しにくい人たちに対してももれなく支援を行うためには行政によるサービスの拡充も必要だと思う。
- 充実させた方がいいとは思いますが、高齢化が進み、それをどのように負担していくのかと考えると、行政となると今以上に税金の負担が若い世代（現役世代も含む）にかかるのは苦しく、民間サービスで高齢者に負担がかかるのもどうかと思うので、今のところどちらがいいという判断ができずわからないとした。
- ある程度の自己負担は、必要である。
- 給食や病院食のようなイメージになるが、栄養士等の人手は足りているのか？物価が高まる中で金額を抑えながら栄養バランスを考えることの難しさや、給食料金の無償化が叫ばれているが、可能なのか？安くなければ反対の声が上がりそうだとも思うが、できる限り税金ではなく、持続していくための料金設定ができるのか？
- 実現するためのアイデアとして地元の保育所（離乳食のノウハウを活かせないか）、小学校、病院の給食／病院食と連携するのはどうか。
- 官民が切磋琢磨することは大切。やりっ放しではなく、お互いが検証してサービス提供が必要。場合によっては、民間に任せる。
- 民間と行政の明確な差別化を行い、高齢者にも明確に分かるようにするべきだと思う。
- 民間がだいぶ充実してきているので、行政は紹介するなどの手助けだけで大丈夫なのではないかと思う。
- 公共サービスは、全年代平等に受けるものと考え、50代に対するサービスがないに等し

い。市民を支えている現役世代が公共サービスを実感できるものを充実させてほしい。

- 我が団地内でも高齢化率が40%を超え、いつ不測の事態になるかわからない現実が到来する時期も遠くないと考える。その時には民間企業に委ねるだけでは大丈夫か心配である。行政もある程度関与できる体制を構築するのはこれからの高齢化に向かっては必要と思う。高齢者も命は大切である。
- 高齢化、少子化が進んでる中で行政（税金）に充実させるサービスは限界が目に見えてる反面、民間企業に頼む余裕の無い高齢者が沢山いるのも現実で、どこに線引きするか、公平は難しいと思う。
- 安いのではないかな？
- どちらか一方に偏るのではなく、両者が力を合わせてやっていく必要があると思う。いいことを取り入れながらより良いサービスを提供して欲しい。
- サービスを受ける方が、行政のものと民間のものを必要に応じて選べるのがよいと思う。
- 今後数年は老年化社会にまっしぐらになる。安否確認等に関して民間企業等が行っているのでもそのみに任せることなく、行政が関わっての民間委託にすべきと考える。
- 行政が少しでも安く良いサービスを行っていくのが理想だと思う。もしくは民間企業への補助という形で、より良いサービスが出来るようにすると良いのではないかなと思う。
- 行政の介入よりも地域での介入を促すべき。したがって、現状ある民間サービスで十分と判断する。
- その地域に暮らすものとして、高齢になっても様々な行政によるサービスを受けられるということは、安心して住める街として魅力のひとつだと思う。
- 地域住民とのかかわりがある配食サービスがあるといいと思う。
- 子供がいない高齢者もいるため、最低限の生活を送れる程度の補助やサービスはあった方がよいと思う。
- 民間企業を利用することに抵抗がある方もいるように思う。一度利用すると断りにくかったり、勧誘が頻繁だったりするので。また自分で作らない事を恥じる思いもあるのではないかな。
- 利用しやすい価格だと思う。
- いろいろな業者が行っていて充実しているし、直接的な事業はなくても良さそうだが、適切に利用出来るように積極的な紹介が必要でその窓口として行政が関わって行くことが大事だと思う。特に一人暮らしや、男性が介護する側だと真っ先に困る問題だと思う。
- 最近の日常生活はシニアにとって安心して暮らせているとは言えないと思う。シニアをターゲットにした金銭的な詐欺、犯罪等で不安満載の日々である。なので行政がサービスを提供、充実して頂ければ安心してお願い出来ると思った。
- 高齢者への安否確認は行政として必要であり町内会を活用して取り組むべきと考える。
- 行政がより良いサービスを提供する事で、民間で更に安価でよりクオリティの高いサービスを提供するよう努力すると思う。
- 友達が配食のサービスの仕事をしており、時々利用者の状況を聞かされるので、民間でも充分だと思えます。
- サービスを受ける側としては、選択肢が多い方がよいと思う。
- 行政の中でもひとつの部署のみならず、多方面の部署が連携し合いながらサービスに厚みを

持たせた方が、よりサービスの質が上がると思う。

- 高齢者の一人暮らし、特に女性では、民間事業では不安があり利用をためらっている例が多いように感じる。
- 民間企業のスタッフだと高齢者特有の病気(特に認知症)への理解が薄く、きちんと学習した行政のスタッフも行えると質が上がるような気がする。
- 行政からは、周知活動を行なってほしい。
- 要支援者、要介護者は食欲が無いのだから1日1食で十分と考えられているのか。
- 食事など生活は自分や家族で対応しないと收拾がつかなくなると思う。
- 届け先に5分会話などのサービスをつけて行うなどただ配膳だけではなく運動して、行えるサービスがあるとおもう。
- 行政としては、民間サービスで異常事態を把握した場合に確実に対処できる仕組みとしておくことが重要。
- 少し高い気がする。物価の高騰はあるが年金で生活している高齢者のことを考えると500円は切ったほうが良いように感じる。
- 民間によるサービスでは利用できる地域に偏りが生じることがあるように思う。行政と民間とでうまく連携出来ればよいと感じる。
- 行政でも同じサービスを行い、プラスαで民間企業のサービスを利用するのがいいと思う。
- 現代のような高齢化社会、しかも単身者や老々介護の家庭が増えている時代に、そのようなサービスは本来民間に任せるのではなく行政の役割だと思う。
- お金がなく困ってるのは高齢者だけではないのでそこに税金を使ってほしくない。
- 食に関することは値上がりの可能性が高い民間よりも行政が担ったほうが負担を公正にできるのではないかと思う。
- 行政サービスが充実することにより、老後も安心して生活ができるし、魅力的なサービスは移住者を増やす要因になると思う。
- サービス自体を知らない方も多いのではないかと思うので、もっと情報発信、周知をしてほしい。
- 一律価格でなく、生活保護や収入により価格が変わる方が良い。1食522円の自己負担は低収入者には負担。現在よりも低価格の価格帯も必要。
- 見守り体制の充実という点では現在の対応で十分機能していると思う。
- 市内中心部では業社も選択できるが郊外ではサービスを利用することもできない。仙台市全域を対応できるサービスにしてほしい。民間は冷凍食品が多いと思うし高齢者の口に合わないこともある。
- 生保受給者以外でも苦しい人達がたくさんいる。そういった人達にサービスが行き届くように行政で低価格でサービスを提供すべきだ。
- 少し値段が高いような?高齢者の年金を考えるともう少し安い弁当もえらべるようにしてほしい。例えばごはんは家でたくのでごはんナシだと-50円とか。
- 行政が弁当を配布するよりも、子供食堂のように高齢者が集まり、会話し、一緒に食事を出来る場所があればいいと思います。

## 問 9-2 に対する主な回答 (介護用品支給事業関係)

- 簡単な申請方法で 利用できれば良いと思う。
- 現物が支給されると使いやすくて助かると思った。現行のままで良いと思った。
- 介護用品など現物支給は他目的への流用が無く、現金よりも効果的に用品が行き渡る家庭も確実にあると思われる。
- 行政サービスの方が信頼できる。
- 公正な手続きと透明性が無いと、介護用品業者との癒着が心配。
- 町内会と連携を取って進めていただきたい。
- 介護用品などは原則非課税にするよう関係省庁に働きかけてほしい。
- 病院に行くついでや、ヘルパーが買い足しできる範囲の内容であり、税金を投入する部分ではないように思う。
- 要介護者は自立できない部分があり、またその家族の負担も大きい。要介護者やその家族が、介護者のいない家族の生活に近づけるよう、配慮するべきだと思う。
- 在宅での介護は負担が大きいので支援も必要だと思う。
- 所得制限を緩和してほしい。
- 民間でも充分に対応できると思うが、価格や選択肢を広げるため、また自身で情報を取得しにくい人たちに対してももれなく支援を行うためには行政によるサービスの拡充も必要だと思う。
- 生きて行くために必要な物なのであったほうが良い。
- お金で配るより、確実なので良いと思う。
- 介護用品の世話になるのは、身体が衰えて不自由な生活を強いられている者で、より多くの行政支援が今後も必要と考える。
- 個人差はあると思うが、完全に介護を必要とする人ならばオムツ代はもっとかかるだろうし、非課税の世帯に限らず、その人のレベルに合わせたオムツを支給すべき。
- 行政の仕事だと思う。非課税世帯だけでなく、超高齢化社会の中で、もっと多くの人に支援があって良いと思う。
- 介護品支給は行っているのに、子育て品支給がないのはなぜか？
- 年間の平均的なオムツ代などから、定期的に支援額の見直しをしてほしい。
- 一定の必要は認めるが、サービスは現在の水準で十分だ。
- 内容を見ると限られた条件の方が対象のようなので、そうした方への支援は良いと思う。
- 課税世帯だけでなく、世帯を広げて提供すると思う。非課税は色々優遇される事が多いので、全てのサービスを利用出来るのではなく、いくつかの中から選択するようにして非課税世帯だけでなく、幅広くサービスを提供してほしい。
- 介護についてはこれから増加していく問題であり率先して事例を作っていくべき。
- 住民税非課税者のみが対象という点が公平と感じた。これ以上に市の支援対象者を増やすべきではないと思う。
- 子育てをする上でオムツ代やオムツを購入しに行くことはそれなりに負担を感じている。ネット注文で配達してもらっただけでかなり気が楽になった。同じく介護する人がいる人たちに

とって、買いに行くことだけでも相当な負担だと思う。ネットスーパー等を活用すれば自宅まで同じく配達可能だが、非課税世帯の人にとって必要不可欠な物品への金銭的支援があることは大きいのでは。可能ならば上限に差はあれど課税世帯への支援もあるとなお嬉しい。

- 介護保険との兼ね合いもあると思うので、行政が主導すべきと思う。
- 今後更に介護人数が増えていくと思うので、過剰なサービスは行政を逼迫することになってしまうと思う。
- 支給事業をしながら見守りが出来る。
- そういう事業を平等に使えるための保険料を徴収しているのだから、行政サービスの向上が望ましいと感じる
- 保護が手厚すぎ。生活保護を受給してパチンコ三昧があるので、本当に必要か実態把握が必要と思われる。
- 年間上限金額を物価に連動させた方がより良いと思う。
- あまりにも制限が厳しい。より使用しやすいようにして欲しい。利用できる人が限られている。
- 今後、介護の必要な方々の在宅介護が増えていくと考えられ、市民税非課税を緩和する必要がありそう。
- 交通の便が不便な地域でさらにはお店がない、オムツなどはかさばるしとてもたすかるサービスだと思う。ムリに車で買い物に行かないといけないなど交通事故をまねくと思うのでつづけてほしい。
- どの程度の支給がどのレベルの人まで行われているのか不明の為分からないが、現状介護を苦にしている介護者は相当数いると思われるし、高齢化が進む事で負担は確実に増加するので、予算が組めるのであれば、少しでも多く事業に当ててほしい。
- ギリギリで払っている世帯は、そこへプラスで介護費がかかる。使い捨てのおむつなどは買わないわけにはいかないしそれ以外にも必要な介護用品はたくさんある。もう少し支給幅がほしい。
- 充実させてもメルカリに売るだけになる。転売されてしまう。
- 市民税非課税世帯だけでなく、必要とする人に支給してほしい。非課税世帯だけが生活苦しいのではない。介護認定のレベルとか年齢で希望者にあげてほしい。
- 市民と行政が一体となって民間に責任を委任するのは止めて下さい。委託費あるなら職員を増員してでも市で責任を持って遂行するのが行政の本来の姿なので。是非その様な体制で遂行して下さい。
- 行政がどのような内容の介護用品を支給しているのか解らず PR 不足である。
- 行政によるサービスを、これ以上に充実させると、「甘え」がでて自立を損う可能性が生じる。
- 介護関連については、民間では限界がある。

## 問 10-2 に対する主な回答 (老人クラブ関係)

- 60 歳では老人とは思わないし、まだ現役で働いて老人クラブで活動する時間も無い。
- 昔からの流れで、一部の方々のお楽しみ会に見える。60 歳が老人クラブ・疑問に思う。ネーミングも含めて。
- 今の老人クラブはもう時代にマッチしていないのではないと思う。60 歳からとありますが、この歳は皆、働いている。
- 人間関係が難しそう。
- 地域に知り合いが居ない。
- 老人クラブに加入できる年齢の生活について現段階では想像できない。
- 若い世代の人達が、高齢の方のお世話や話し相手になった方が良い。
- まだ具体的にイメージできないが、参加できるグループがあることはいいことだと思う。
- 暇だと思ふし、知り合いが増えそう。
- クラブを通じてボランティア等を行うには興味があるが、老人クラブという名称のクラブに入ることに抵抗感がある。
- 高齢になってからも他者とある程度関わり続けることが必要だと考える。
- 自身の趣味を充実させたい。
- 特に興味はないから。
- 役員等の世話役はやりたくない。断捨離の一環として。
- 老人に限らないさまざまな年代が所属するサークル活動のほうがいい。
- 特に高齢のお爺さんたちには勘違いしている人たちが多い気がする。街中で怒鳴る大声をあげるのは高齢の男ばかり見かけるので。一緒に活動するのは怖い。
- 70 代ですが今のところ加入していない。実際にどんな活動をしているのか知りたいところもある。
- 60 歳は少し早いと思いますが、年齢を重ねていくと行動範囲が狭くなるので近場での交流は必要です。「老人クラブ」という名称が古めかしいですね。名称かえれば気持ちも新たになると思います・・・。
- 地域の各種活動は大変重要だと思うが、人間関係で煩わしい場面が多々あり、当面遠慮したい。
- 定年なども引き上げられているなか、いまだに 60 歳以上の条件としているのは古い。もっと年齢を引き上げるべき。
- 60 代は加入に早いように思います。80 代 90 代と同じ内容の活動では物足りないひともいると思う。
- あまり地域での交流がないので、入るきっかけがない。
- 加入はしてみたいが、どのような活動をしているのかいまいち理解していない。
- 定期的な活動に縛られず、自由に生きたい。
- 外に出る機会を無理にでも作ったほうが、心身ともに元気でいられそう。
- 一部の人達だけの閉鎖的な団体のように見える。
- 老人クラブ内でも高齢化が進み、車を運転できる人や事務処理(パソコンを使用しての回覧物

の作成)ができる人がいない地域もあると聞く。準会員(例えば60歳を過ぎてフルタイムの仕事をしている人など)が、その部分を補えばよいと思う。

- 自分の興味のある活動内容であれば参加したいと思う。
- 近所付き合いが気薄なので、何か共通の事で活動出来たらいいと思う。
- 元気なうちは参加したいと思うが、マンションが町内会に加入していないため、具体的なイメージが持てない。
- 年金支給開始年齢が引き上げられ、定年延長等実施されている現状。また、65才になり、介護保険証が送付されてきて初めて高齢者の仲間入りしたことへの失望感があったり、自身を老人として認めたくない気持ちが強くなったりしていると思う。(実際現役として活躍している割合も多いのではないか) そのような中で概ねといえど60才で老人クラブに加入したいと希望する方がどのくらいいるのか。ボランティア活動や有料サービス等も含めた活動がしたいと考えているが、老人クラブに入会したいとはおもえない。
- 他人と接する機会を増やす、もしくはある状態にした方が本人の生活の張りにつながるの、コミュニティは多くあるべきだと思う。
- ある程度長く生きてきた高齢者はそれぞれ考え方が凝り固まりそれが元で意見がぶつかりトラブルになる話を聞いたことが有るのであえて避けて通りたいと思う。
- 年齢で区切らず、様々な年齢の人を関わる事が出来る活動の場に参加したいと考えている。
- あまりイメージが湧かないが、生活に余裕があって自身も健康な人が加入するイメージがある。
- 地域の住民と知り合いになれる、外出の機会が増える。
- 老人クラブへ仙台市がいくら財政負担をしているのかは気になった。その金額にもよるが、私が60歳になる2050年代に仙台市が老人クラブを援助し続けられる財政的余裕があるのかは少し疑問。今の高齢者にとってみると、そうしたサービスを使ってコミュニティを広げて楽しめるなら良いと思う。
- 近場であれば良いのですが、さすがに80歳となると移動手段が気になる。
- 自分の生活を周りに大っぴらにしたくない。
- 今の地域が馴染みある地域ではない。
- 現在の交友関係に満足しているため。
- 同じ高齢者の方と繋がりを持ち、日々をより充実させたいのでぜひ参加したい。
- 今やSNSなど色々なツールがあるので自分で自分が興味のある集まりを選んで参加すると思う。
- 高齢になっても自分が好きな事を続けたり、興味を持てる事に挑戦したりできる場所は欲しいと思っているが、そこで生まれる人間関係などに関しては特に興味がない。
- 60歳になってもまだまだ働ける状態にあり、年金支給までにも間がある。さらに社会参加への道はいろいろあることから、あえて「老人クラブ」は選択しない。現在の老人クラブは高齢化が進み、60代の人が入る環境にはない。
- 老人クラブでやりたい事がないのに行く必要がない。スポーツクラブに行ってしまうが、朝から年配の方が運動しているので、その様な事で良いと思っている。
- どこでどうやって加入できるのかわからない。

- 老人クラブの活動について行きたいと思うイベントがない。男性は特にそう思う。
- 何かやらされる気がする。
- 老人クラブの活動内容が不明なので PR が必要と思います。
- 自分の健康の為に加入し興味のある内容にだけ有償で参加したい。逆に興味のない内容を強制参加(人数合わせ)はしたくない。どんどん多様化していくと思うので、それに合わせたサービスを今から検討していくと良いのではないかな。
- 老人クラブの活動に、中度や重度(?)といわれる障害の方々の活躍(動)をみかけた記憶がない。あたりまえな社会なら、一緒に活躍したいと考える。
- もうすではいっている。まさに、今、地区の夏まつり、これに老人会の人達と協力して何かしらお手伝いをと、たちあげてくれていて楽しい(うちあわせや直接のお手伝い etc)。
- 同世代の 60 才以上の関わりより、若い方と触れあいたい。心が若返ると思うから。シニア世代の話は病気や孫の事が多く、独身だと辛いと思う。
- (役員としての補足)75 才位まで元気な人は、働いているため加入を進めても、加入者が少ない。また老人クラブ以外に趣味の会が多いので、その会に入る。(新加入が少ない)

## 問 11-2 に対する主な回答 （地域での支え合い活動関係）

- 自分にできることがあれば協力したいと思う。
- ボランティアに興味はあるが、真夏の草取りとかは無理だと思う。
- 子どもの見守りなど次世代の育成につながる内容等は、自分の存在意義を感じ続けるために必要になるだろうと考える。
- 町内清掃などやってみたい。
- 地域コミュニティは大事にしたいと考える。
- 現在の生活でいっぱいのためボランティアをする余裕がない。
- 内容がいまいちわからないのと、いつしか強制的な活動になるようなことにならないかと不安。
- ボランティアを謳いつつ補助金の交付がある。補助金の用途について領収書などの精査ができていないのか不明だが、税金が投入されているのであればどのような用途に使われているのかまで追う必要がある。もし現状、用途まで追っていないのであれば「用途を迫る仕組み作りをする」。それができないのであれば、あくまで「ボランティア」として活動し補助金は打ち切るべき。
- 現在近隣で盛んに活動している様子。転居間もないがそのうちに参加しようかと考えている。
- 地域防災などに関心がある。ボランティア活動には積極的に参加したい。ただ、コミュニティとのかかわりがないので、参加のハードルがある。
- 忙しい日々を過ごしたくない。
- 内容がわからないので判断できない。ネットで情報を公開してほしい。あるいは、そのようなサイトがあれば紹介してほしい。
- 参加・協力するにしても、その案内・指導する母体がないと、参加しづらい。ボランティアセンターのような、ボランティア活動をしたい人を受け入れ、調整する体制が必要に思う。
- 地域で支え合いは若者の労力を老人がとるということになる。対価が生じないと持続可能性があると言えない。
- 興味はあるがご近所の方との距離感が心配でもある。
- 高齢化社会なので地域の人達と協力しながら生活しないといけない。
- 旅行先で、草刈りやお祭りやイベントの誘導など、元気なお年寄りの活動あつてのものと実感している。
- 社会とのつながりを維持しておきたい。
- 近所付き合いを、最低限しかしていなかったのも、お手伝いしたくても声をかけるのに遠慮があるので、広報してほしい。
- 現役時代に就業していた分野や資格、女性として母として持ち得ているスキルなど健康で動くことができれば社会貢献がいくつになってもできたらしあわせなので。
- 町内会の活動だけでも、理不尽な思いをした経験から近所での活動は控えたいから。
- 地域での支え合い活動（ボランティア活動）については、多くの高齢者が待っていると考える。特に今後はフレイル予防に最も大切な「人との関わり」が重要と考えるからである。高齢化率が高くなると地域の環境で、暗い生活環境か明るい地域か分かれると思う。

- 仙台市内においても、ボランティア活動によって成り立っているコミュニティや場がある。それらの中には行政が取って代わることが困難なものも多く存在している。ボランティアの存在なしに地域が維持できるのが望ましいと思っているが、人の移動が多く地域の中での人の交流が多くない地方都市仙台においてはボランティア活動が重要な役割を持っていると感じるため、ボランティア活動に参加したいと考えている。
- 地域に支えられてきたので、できることはやりたいと思う。
- 地域ではお互いが支えあって暮らしているので、自分が役に立てることがあれば積極的に参加したい。
- 支え合いという用語弊がある。本テーマにおいて高齢者を対象としたサービス/活動が示されていると思うが、それは双方向で支えられるものではない。高齢者以外を支える何かを提示しない限り、それらの人の一方向での「支え」にしかかなり得ないのではないか。地域のあり方や価値を今一度整理、見直した上で双方向のメリットを検討し、施策として取り上げる必要があると思料する。絶対数が多い高齢者の得票を当てにして、保身的な、かつ短期的な戦略は無駄しか生まない。
- 暮らしやすい街づくり、地域コミュニケーションの観点から必要。地域が主体性を持ち自らの町の運営を行っていく。
- 決して介護だけの問題ではなく、地域作りがまずあって、老人介護、通学路交通安全、教育、農業体験など様々な取り組みを行っていく地域に対して用途を限定せずに補助を出していく仕組みが必要。
- それぞれの地域の実情にマッチした対策を地域コミュニティで考えて実施していく。
- いずれ自分も年を取り、若い世代にお世話になると思うので、支えあって生活していける社会（地域）が理想と感じる。
- 退職後、人間関係が希薄になりそう。ただ、もし働き口があるなら、ボランティアよりは働きたい。
- 地域での支え合い活動が高齢者のみ対象になるのは疑問。五橋のフードバンク利用率は学生が大半だとフードバンクのスタッフさんが仰っていた。今、支え合いを必要としているのは高齢者だけなのかは高齢者事業だけでなく仙台市全体で総括して検討する必要があるようにも思う。
- 参加したいと思うけれど、地域の人との関わりがない為、参加するには勇気がいると思う。
- 子育てが終わり余裕ができた。何か役に立つ事が出来ればいいと思う。
- 知らない家庭とコミュニケーションをとるのは少しわずらわしいので、なるべく関わりたくないが必要とあらば手伝う。
- 子供食堂とかは特にボランティア活動をしたいと思うが、今現在自分の趣味を優先しており、時間を作りボランティア活動をしたいと思う。
- 肉体的ボランティアのみがボランティアとは思わないが何らかの形で貢献したいと感じる。
- 近所の高齢者との交流、声掛けは努力しているが、老人クラブとしての組織的な活動を模索したい。（私が加入したクラブからは、今のところ具体の誘いはない。過去の事業実績では懇親会的なものしか知らない。）

- 気軽にできるボランティアだったらいい。
- 地域では、濃密な関係ではなく、サバサバした関係を持ちたい。
- 現在子育て中で、様々なボランティアの方に助けをいただき頑張ってきたので、私も力になりたい。
- ボランティアですべてを賄える時代は終わった。適切な賃金が払われるべき。
- 良いことだと思うが、報酬はほしい。
- 緊急時や防災等の観点から、普段からの地域での支えあいは必要だと思う。町内会組織等も活用して取り組めればいいと思う。
- 高齢化が進み、核家族が増える中、支え合いは重要だと思う。支援する側がいずれされる側となるのだから必要だと思う。
- 孤立が1番心配。できるだけ協力したい。災害時の対応などにも重要である。
- 対価があるからこそ、質の良いサービスを提供できると思う。
- 町内会の活動が多くて、他のボランティア活動はしたくない。
- 近所の小学生の見守り、防犯パトロールなどして子どもの未来を守りたい。
- 地域との関わりや助け合いはいざ何かあった時に大切。なかなか付き合いも浅い昨今何かを通して関わりを持っていた方が良く思う。
- どのような団体があり、どのような内容のボランティアをしているのかが分かるとより参加しやすいと思うので、情報の集約と最新の活動内容を更新して伝える場(物理的な場だけではなくwebも含め)が必要と感じる。特にwebについては作成した時点から更新されていないケースが多々見られるので、継続的に最新状態が保たれていると、新規で参加する人の判断材料になりやすいと考える
- ボランティア活動をやったことがなく、地域での支え合いの活動も知らなかった。これくらいの活動であれば自分にも出来そうと思った。
- 自宅近くで出来る事があれば役に立ちたいと思っているが、情報が手にしにくい。(公共施設にボランティア冊子があったり、なかったりする。冊子以外、どこから知ることが出来るのかわからない。)
- 草むしりはマンションのみんなとやったりしている。子供達が遊ぶ公園がキレイになり、楽しく遊ぶ姿が見られたら嬉しい。
- 参加したく、自ら探したこともあるが活動内容や活動団体の詳細などが不明であったり何かの勧誘をうけそうでこわい。
- 情報をもっとほしい。小さな事ならできる事もあるかもしれないので。
- 必要とされればサポートしたいが、近所で町内会に加入しない高齢者がいるので(増えている)支え合いを望んでいない方も増えているのでは。
- 仲間(仲良い方)がいれば参加するかなと思う。
- どんな人が分からない状態で、かかわりあいをもちたくない。
- ご近所の把握に役立つと思う。
- マンションなので必要ない。地域がわずらわしいのでマンションを選んだ。
- 仕事を終えた時、色々探したが、なるべく近くでと思ったが、なかった。
- 認知症についてのボランティアで、認知症という病気について勉強したりして町内で認知症

の人達を見守りながら、孤立しないように気をつけている

- いずれ 1 人ではできないことも増えたら、まわりに支えてもらいたいから、元気なうちは協力したい。
- 問 10 の様なクラブ活動には、何等かのサポーターが必要と思う。例えば新規加入から 4~5 年すればサポーターとして、4~5 年努める等。
- 知人(親族)が民生委員を任されてしまい疲弊したのをみた。
- 民生委員と何が違うのか?他の組織や活動内容との差別化。行える内容の範囲など趣旨など明確にわかれば内容、分野に応じて参加してみたい。

## 問 13-2 に対する主な回答 (シルバー人材センター関係)

- 70 歳近くまでは会社で働かないと年金生活が苦しいと思うので、健康な内は働くつもりだからシルバーセンターには登録しない。
- 知り合いを増やしたいし、自分の出来ることで小遣いを得たい。
- 自身のスキルを活かせる可能性がある。
- 働いていた時代に仕事を通じてシルバー人材センターの方をお願いした内容があった。とても丁寧に仕上げてくださったことがあり、印象に残っている。自分にできることがあるかわからないが、機会があれば自分も参加してみたいと思う。
- 賃金が安いと聞いている。
- 原則 60 歳は前時代的であり、現代において定年引き上げがされている昨今、60 歳から利用する人数がどれだけ推移しているか甚だ疑問。定年後の就労を目的としているのであれば 65 歳や 70 歳に引き上げてもよいのでは。
- 別な形で自ら就業先を見つけたいと考える。
- 定年が 65 歳になっている現在、原則 60 歳という年齢は若すぎるように思う。シルバー人材センターの職種の内容が限定的で興味のあるものが少ない。
- 過酷な労働の印象が強い。
- 働ける環境は素晴らしいと思う。
- 子供たちの世話や見守りなど出来ることは手伝いたいなどは思う。自分が子育てをしていて、もっとお年寄りが身近にいるべきだと感じることも多々あるため。いろんな年代の人の価値観を子供たちは知るべきだと思う。
- 自身のスキルを活かして活動できるのであれば、精神的衛生が保たれると思う。
- 個人的には望まない。民間に任せていいと思う。
- 体力が続く限り長年住んでる地域のために、子や孫、ひ孫のためにと、住みやすいまちづくりに協力したい。
- 仲間内での活動はしても良いかなとは思いますが、全くの他人となればいざこざも考えられるので、活動はしたくないと思う。
- 60 歳以上は雇用してくれる企業が限られてくると思うから、もし働き口がなかったら利用したい。
- 人材センターまで行くのが億劫だから。
- かつて登録していたが、自分に合う仕事がなく、すぐにやめた。
- 今の 60 代はとても元気なので、働きたい人は働ける環境があれば社会貢献に繋がり経済効果を生むと思う。
- 現在の職場で、シルバー人材の方が週 1 くらいで来ていただいているので、自分もいずれはそうやって働くと思っている。
- 隙間時間で仕事をして社会参加したいから。
- 自分の親が 60 歳になったのを機にこのセンターについて調べたが、時給は低く、割に合わない印象が強かった。仮に自分がこの年齢になった時に働く意志があるなら、自分でアルバイト先を探すと思う。

- 60才はシルバーではない。
- 社会との繋がりの一つのツールと思う。
- 仙台市ではないが、コロナ禍に妊婦の友人がコロナ陽性となった際、シルバー人材の方が近所のスーパーへの買い出しを代行してくれたと聞き、とてもよい取り組みだと思った。
- パートナーが居なくなり1人の時間が増えてしまうなら利用するかもしれないが、時給が低いなら使わない。会社の定年や再雇用の年齢も上がっていくと思うので市の人材サービスを使う可能性は低いと感じた。
- 実際にどういった技術が求められるのか知りたい。
- 未経験の事もやってみたい。多少の収入にもなるだろうし。
- 継続的に支援するわけではなく、システムの中で対応できるならどうぞといったサービス向上に努めていない。ずさんな事業であるのはまちがいない。
- 高齢者にとって気持ちの張りや身体を定期的に動かす事はとても大切な事と考えている。
- 人材センターの場所が近所であれば活動出来ると思う
- 近所等を(地域)をみていて、(子供会関係グループ)(長年の知り合いグループ)…の様に世代や少数(多数)派でわかれてしまって、お互いの交流を目にするコトはあまりにもなさすぎると感じている。
- 私の年齢(77才)では無理なのかと思う。
- 草刈、草取等のイメージしかない。
- シルバー人材では、自分のできる仕事が見つからない。ふつうに、自分で探す方が、効率的だと思う。
- 久しぶりの社会活動に不安。
- 以前、登録説明会に参加したが、かたよった地域にのみ優先した運営方針に疑問。

## 問 14-2 に対する主な回答 (高齢者銭湯等利用交流支援関係)

- 銭湯ではなくデイサービスセンターの風呂に入る方が良いと思う。
- 銭湯に近い人や 車で送ってもらえる人以外は 利用しにくいのではないかな。
- そのような支援があることを知らなかった。
- お風呂がない状況にある利用者がどれだけいるのかわからないが、必要な方にだけサポートがあれば十分ではないかと思った。
- 高齢者のごく一部の方が使用されていると思うので、現状でいいと思う。
- 銭湯自体が少なくなっているように感じるので、支援も難しいのではないかな。
- 非課税者などの困窮者に限定すべき事業。
- 銭湯、浴場文化を維持発展させるためにも、高齢者を中心に使用支援を行うことは理にかなうと考える。
- 民間に銭湯まで行くタクシー代とかを補助した方がいい。高齢者はバスよりタクシーが利用しやすい。
- 銭湯利用のできない地域もあるから不公平。
- 拡充すべきは利用できる場所の数。4箇所はさすがに少なすぎる。民間とも連携してスーパー銭湯などのチェーン店とも提携すべき。
- 銭湯の数が少なすぎて、利用出来る人が固定化する。
- 高齢者に予算を割きすぎて現役世代の納税者を圧迫してはいけないと思う。できることは自前でやればよい。
- ほとんどの家庭に風呂がある現状を考えると、この種の支援制度の必要性を感じない。むしろ、現在、銭湯（スーパー銭湯等）に行っている人の多くは経済的に余裕のある人であるので支援は必要ないと思う。
- このことについてはどこまで行政がかかわっているかわからないので、回答が難しい。高齢者の発しづらい声まで聞いて(どこまでできるかはあるが)、不満がなければ今まで通りでよいと思う。
- 補助は必要だと思うが、特定の場所だけというのはダメだと思う。
- 実際どのくらいの方が利用していて予算も含め継続する必要があるかは検討してもらいたい。
- この目的がよく分からない。水道光熱費の節約？
- 銭湯業界への特別な配慮としか受け取れません。
- 銭湯が少なくなりつつある中で、銭湯にこだわる必要はないかなと思う。
- 必ずしも必要というわけではないため、民間企業による対応で充分だと思う。
- 使用できる銭湯の有無やそこまでの行く交通手段等、地域によって格差があり利用している人は限定されてくるような気がする。また、ほとんどの家には風呂が完備されていて、介助が必要な方は介護サービスの利用等が実施されていると思う。
- 今の時代には不要だと思う。
- 高齢者の楽しみの一つにしてもらいたい。
- 支援する事で生活に支障なく過ごせる環境づくりをしてあげたいと思う。
- 時間のある高齢者が低額で利用し、日々生き生きできるのはいいと思う。でも 100 円は安す

ぎるような..。

- 月に2回でも、大きなお風呂に入れる機会があるのは嬉しいと思う。続けてほしい。
- 現在の住居生活から見ると、高齢者の銭湯利用は一種の楽しみとして利用するところなので、行政による支援は必要ないと感じる。自前で利用が本来かと思う。
- 地域によっては高齢者間のコミュニケーションの場となっているのではないかなので、この取り組みは継続する意義があると感じる。
- 一方で頻度を現行の月2回以上にすると、不公平を感じる人も多くなるのではないかな。また、入浴料金100円が「当たり前」になると、そのタイミングを狙って銭湯を利用しようという気持ちが薄れるのではないかなとも思う。その点で、頻度を増やすことには直ちに賛成できない。
- 高齢者に対してはこのままで良い。厚生労働省のパンフレットを読んだら、銭湯は中高年の男性客が多いとのことなので、若年層や主婦や子供向けのサービスも充実させてほしい。
- 銭湯自体も少なくなってきたし、ほぼ各家庭に風呂はあると思うので、行政が関わるとしたら本当に困っている高齢者に限るべきだとは思う。
- 高齢者に絞る意図がわからない。学生なども含めたら良い。
- 銭湯はただ入浴するだけでなく、地域住民のコミュニケーションの場でもあると思う。
- 月2回200円では足りないので、週3回300円程度にしてはどうか。
- 対象年齢になったら利用したいと思ってた。今は時間がないからあまり行けませんが、無職になったら時間ができて気分転換に行きたい。
- 限られた4地区4銭湯を支援することで、おそらくその銭湯のある地域は少し経済効果があるとは思いますが、長い目で見た時に、本来淘汰されるはずの地域を市として支援し続けることで、長期的に見てどのようなメリットがあるのかは少し考えた方が良いとは思う。
- 高齢者が外に出かける良いきっかけになる。
- 銭湯自体が少なくなってきた中で先細りのサービスと感じる。
- 銭湯も大事な場所だと思う。今は少ないから余計に高齢者に利用しやすくしてほしい。
- 銭湯利用は、一部の利用する人のみのため、それより介護用品や見守り活動を強化したほうが役に立つ人が増えるかと思う
- ゆっくりする時間、場が必要だと思う。一方で銭湯そのものが減少している実態もあることから新たな策も必要。
- 一概に高齢者でくくるのは違うと思う。裕福な高齢者とセーフネットを必要とする方という観点で考えれば高齢者だけでなく子育て世代の支援と同等で進めればよいと思う。
- 銭湯利用は、個人差が大きく、公衆衛生上の必要性というより、交流の場としての意味合いが残っているのでは。その点からは行きたいけど経済的に行きにくい人への補助は有効と思う。
- 銭湯が少なく利用するにしても車で出かけ、駐車料金を考慮すると支援の意味合いが無いように感じる。
- 時代的に銭湯も減っているのかなと思うが、どのくらいの方がこのサービスを利用しているのか気になる。このサービスがあることで外に出る機会になっている、交流する機会がある

のであれば良いことだと思うが…実際に必要なサービスなのかな?と思う部分もある。

- 交流の場にもなり良いと思うが、行政の費用負担にはあまり賛成できない。
- 高齢者が本当に銭湯利用の支援を必要としているかわからない。
- 高齢者だけでなくても病気や経済的な理由で利用したくても出来ない人がいるのでこのサービスを行政がやらなくてもいいのでは…と思う。
- 月に2回とはいえ、100円は安すぎると思う。遠い人は利用できないなど使用する人が偏ると思うので無くしても良いかなと思う。
- 銭湯を利用したくてもできない人に対する支援も考慮していかなくてはならないと思う。
- 理美容の必要性と同じく生死に関わることではないので(また好き嫌いも個人差がある)のでそこに支援をする必要はないと思う
- 家のせまいお風呂じゃない大きなお風呂を楽しみにしている高齢者がいるのであればつづけてほしい。
- 銭湯が近くにないと利用できない。秋保、作並の日帰り入浴チケットを年間2枚程度あげるのはいかがでしょうか。
- 値段も安いし、とても良いと思う。
- とても良いサービスできれば増やして行ってほしい。また、知らない人も多いと感じる。
- 高齢者の楽しみになるので今のままのサービスで良いと思う。
- 入浴という楽しみの元、自然とコミュニケーションに対する意欲も違ってくると思う。また民間の入浴施設は昨今値上げが顕著である。
- 歳になるとお風呂に入ることもおっくうになると思うから衛生的にも利用を充実させたほうが良いと思う。銭湯で見守り確認でスタンプとか。
- 楽しみとしてあってもよいと思うが銭湯の近所の方しか利用しないのではないのだろうか。利用率や利用者の地域などデータをとるべき。もう少しバランスをとることも必要ではないだろうか。どちらかというとな銭湯支援の側面があるのではないか。
- 高齢者だけではなく、銭湯を知らない子供(小学生以下の)世代との交流があっても。

## 問 15-2 に対する主な回答（敬老祝金関係）

- お年寄りの唯一の楽しみだと思う。
- 高齢化しているため、受給対象者が増えていくと思われますので、今後は 100 歳だけでも良いかと思う。
- 祝う気持ちはもちろんあるが、これからますます高齢者が増える中、財源は大丈夫なのかと感じたので。
- このままで十分だと思う。
- 何のために行っているのか理解できない。一度目的を整理されたら良いと思う。
- もう少し金額を上げた方が良いと思う。
- お年寄りに配るお祝い金は今のままでよいのでは。それよりも子育て世代などへの給付金を増やしてあげればよいのではと感じる。
- 他の高齢者支援に予算を回すべきと考える。
- 長寿社会で高齢者が増えているので祝い金という形でなくてもいいように感じる。
- 経済的に余裕のある高齢者が多い現状では必要ない。
- せっかく長生き出来た事にお祝いしてあげたい。
- 祝う目的や意義が不明。今後さらに高齢化が進む中でこの制度はただの悪でしかない。この祝い金に使う税金は若者に投入すべき。
- 気持ちに張りがあるとおもう。
- 何の意味があるのか以前から疑問だった。これからどんどん少子高齢化社会になるのに高齢者が増えることを祝ってどうするのか。出産祝金の方がまだ理解できる。
- 単純な現金配布よりも、具体的なサービス提供のほうがよいのではないか。
- 必要はないと思う。もっと緊急を要する高齢者対策に使うべきと思う。
- 寿命が伸びているので年々祝い金を受け取る人数が増えていると推測しますが、そこに使うお金を他の行政サービス向上のために使ったほうが多くの人のためになるのではないかと考えているので廃止にしたほうが良いと思います。
- お祝いとして、これからも事業を継続してほしい。
- 高齢者はイベントごとが少なくなりますし、誰かが気にかけてくれていると思うことは必要。
- 税金の無駄遣い感が強いと感じる。
- 高齢者数が増え、財政逼迫はわかるが、どんどん金額や、対象者が減らされ自分の時には何もないのでは？と思う。非課税者には多く支給とか、裕福な高齢者には上げなくてもいいのでは。
- 各町内会でも同様の祝い金などあると思うので、十分だと感じる。
- 今後において高齢者が増加していくので、この事業を継続してよいのかは考え物かと思いません。お祝い事なので、スパッと止めるのも寂しいなとも感じます。
- 入金等の事務手数料や人件費などを考えるとともに、その少額補助が市民にとって何の価値を生み出すのかをよく考えるべき。
- 福祉サービスをより長く受けることが出来るため、早くに亡くなった方との均衡を考えると祝金はなくても良いのかなと考える。

- 年齢を重ねられたお祝いは悪いことではないが、生活に困っている人や障害者などもっと支援が必要な人たちに十分なサービスが行き届いてないと思うのでそちらにお金をかけるべきだと思う。
- 健康で長生きしたいと目標ができるかな？と。
- 敬老の気持ちは大事だと思うが、子供への祝い金の方がいいように思う。
- この事業は初めて知った。あまり認知度がないようにも感じるし、そもそもその年齢まで達する事ができた方はこれまで色々な苦労があったとしても貧困や病気に長期的には晒されてこなかった可能性があるので、そのために予算を確保しなくてもよいように思う。また、そうした高齢になられた方に一時的なお金を市としてお渡しすることで、市としてどのようなメリットがあるのかはあまり想像ができない感じがある。
- 健康に気をつけて長生きしたいと思う希望と夢を抱けると思う。
- お祝い事から続けて頂ければ楽しみの一つに繋がります。
- お金ではなく、お菓子や物でも良いのかと。
- これから超高齢社会のため、お金を配るのではなく、毎月の役立つ支援を充実させたほうが、いいかと思う。
- 100歳に5万円は多いかなと。それならばまだ動ける年齢のうちに支給してあげてほしい。
- 祝金は外食でも買い物でも動くためのきっかけになるものと思う。
- 節目の年齢でお祝いを貰えるのは記念になると思う。継続して欲しい。
- 喜寿なども加えてもいいのではないかと。金額ももう少し増やしてもいいと思う。
- 100歳で5万円もらって、何に使うのか今は想像できない。
- 「おめでとう」というのは必要だが、お金はもっと少なくてもよいと思う
- 介護にお金がかかるので有り難いと思う。
- お金のために長生きするわけではない。
- 長寿の人が多いためこそ、もっと多くの人に祝金があっても良いと思う。特に100歳の人にはもっと祝金があっても良いと思う。
- 米寿や100歳のお祝いをもたらるのは知っていたが金額が安いと思った。米寿も5万円が良いのかなと思った。100歳まで生きるのは一握りだと思うのでそちらを1万にする等。
- ただ単に年齢を重ねるだけでなく、健康寿命も意識したお祝いも検討してもいいと思う。
- 77歳(喜寿)にもお祝いを拡大したらいいと思った。
- 生きがいになると思う。頂いたお金の使い道(孫に使う等)を考えることで楽しみが得られると思う。
- 現在の内容でよいと思うが、独居老人などはこのサービスを知っているのか？申請をして、うけられるサービスだとダメかも…「おめでとうございます。祝金をふりこみました」のお手紙でお知らせして口座に入金されるくらいでないと手続きはむずかしいと思う。
- 企業からの協賛をつのり、お金だけでなく、何か喜ばれる品物も一緒にあるとよいと感じた。金額の増でもよい。
- 不必要と思う人がいれば辞退できるシステムがあればよいのではないかと(すでにあるのかもしれないが)
- 88才は1万でも長命なので良いが100才となればそんなに沢山の人はいないはず。10万位

では。

- 100歳の祝金も88歳の祝金も大切。100歳の祝金より、88歳の祝金の知名度は、かなり低いと感じる。
- 税金で祝うことでもないと思う。
- 高齢者にとって、喜び、励ましの一環となり好ましいが、頂く前に亡くられる方もいると思うので、大体の方が頂ける年齢(例、傘寿)に行った方が公平になる感じがする
- 高齢者にとって金銭なのか記念品が良いのか意識のない人に祝金はどうか、再検討して、大方の人が喜ばれる制度にするべきである。
- 一時的な祝金よりも皆で、いつでも利用できる事に使ってほしい。(問16の答のようなものに)
- 敬老祝の老人クラブ、町内会等の行事に重点を指向し、補助金交付の方向に事業を限定したほうが効果的かも知れない。
- 以前は70才から祝金が出ていた経緯もあり、縮小してきたので100才だけで良いのでは。
- 88歳で1万円は現在の経済価値からみて意味がない。100歳で5万円も、結局使用するのは家族になり、本人に対する祝金にはならない。これからは高齢者はまちがいなく増加するので財政にも負担が大きくなるので廃止すべきである。
- 老人の人数が多くなり、財源も不足すると思うが、老人の励みになったりすると感じるので金額にかかわらずお祝いの事業は続けた方が良いと思います。
- 現在100才以上の高齢者が多くなった。105才、110才位も加えた方が良い。
- 高齢になると(例えば85才以上)全員、体力測定をして一定以上の体力のある人に表彰状と副賞(プラスα分として与え(名誉?)¥1,000-位の商品?)を与え啓蒙する。

## 問 16 に対する主な回答 （今後の福祉事業の充実関係）

- バスの増便や経路の見直し、乗り合いタクシーの増進。
- 病院までの交通手段として、自宅付近から乗れる、乗り合いタクシーがあれば良いと思う。
- ボランティアに気軽に参加できるような組織づくり。
- 無料の施設。
- 豊かな技術や経験をもった方々がたくさんいると思うので、シルバー人材センターのように高齢者の方の力も発揮できるようなシステムがもっと充実したら良いかと思う。
- 高齢者が孤立しないように近くの市民センター等で、趣味の講座やスポーツ教室を実施するのが良いのではと思う。
- シルバー人材センターのように、お金を稼ぎつつ社会貢献出来るような事業が必要だと思う。
- 社会参加を促すような組織づくりが必要。
- 買い物や病院通院の移動手段の確保と、低コスト・高頻度で実施するための研究開発が必要であるとする。
- 高齢者が集まりお茶飲み会話出来る、カフェ的な場所を市民センターに作ったり、幼稚園、保育園、小学校で子供たちと一緒に活動出来る場を作って、世代を超えた地域との交流の場を増やしたら良いと思う。
- ひとり暮らしの高齢者も多いので、定期的に訪問するなどの見守りサービスの充実があるといいと思う。
- 孤独にさせない。人との関わりを持てる事で高齢者が生きがいを感じ、地域社会で活躍し続けることができる環境作り。
- 高齢で1人暮らしの人に希望者だけに安否確認を電話で実施する。週1回程度
- 市民センターの機能の拡充。
- ゴミ捨てで遠い集積所まで持っていくのがほんとに大変なことだと思う。足腰が弱ってる方には。
- 地域にある集会所、コミュニティセンターを使い様々なイベントやサークル活動ができるようなサポートがあつたらいいと思う。
- 遊歩道の整備や、空き家の状況把握など充実が必要。ウォーキング中に草が伸び放題のところが目につく。
- 敬老祝金事業のようなバラマキ的な福祉は必要ない。
- 生活必需品の購入券などあればよいのではないか。
- 「小さな喫茶店」の様な自主運営の出来るスペース提供が望ましい。コミセン・集会所は不便なので民間の空き家対策を考慮すると良いのではないか。
- まずは福祉事業に IT 分野のサービス導入することに力を入れるべき。現状のままでは高齢者が増加し働き手がいなくなる。外国人労働者を雇うにも日本や賃金が低すぎる。率先して IT サービスを拡充し、福祉と IT を掛け合わせて充実させていくべき。
- 家族がでかけなければならないときにあずかってくれる近くの施設や家で見守りをしてもらえるサービスがあればよいと思う。そういうお手伝いを健康な高齢者が担えば生き甲斐になると思う。

- 隣近所で、何かあった時の家族の連絡先を把握しておく必要があると思う。民生委員への連絡先すら、わからないことがある。
- 若年層と高齢者との交流の機会の創出。こうした交流イベントは地域任せではできないことも多いと思う。年齢層がいずれかに偏っている。すると、行政が場の提供や企画や告知に関与して交流会を開くなど、地域コミュニティづくりに参画してほしい。20代の若年層として、高齢者との交流や地域との交流は希望しているし、参加してみたい。しかし、地域の掲示板のイベント告知に高齢者向けしかなかったりして、どのようなアクセス法があるかわからない。
- 福祉事業をすることも大切でしょうが行政が主体となることは街作りのデザインをすることだと思う。何年もかけて根気よく。暮らし続けられ街づくり。
- あらためて高齢者のニーズを掘り起こすべきと思う。以前と比べ高齢者の概念が変わってきており、60歳や70歳は高齢者とは言えないように思う。起業できるよう支援するなどの試みが望まれる。
- まずは高齢者の現状を知るべきだと思うので、より多くの高齢者の生の声を聞くことが大事だと思う。当事者でない私たちが判断すると、的外れなことをしてしまう可能性がある。
- 高齢者と分けるのではなく地域の人全体で考えていくことが望ましいと思う。子育て世代も地域の方に助けてもらったりできるようになるといいと思う。
- 異なる年齢層との交流が出来る機会を作る。民間で既にあるが保育所と高齢者施設の併設、小学校や児童館でボランティアの活用を推進するなど。
- 箱ものを増やすよりまずは福祉業界の給与をあげないと。
- ボランティアでも、少額で良いので手当を頂けるようなシステムをつくり、生活が楽しく張り合いが持てるような事業が必要と感じる。
- 現状の利用の少ない福祉事業を廃止し、利用の多い事業に予算を上乗せすることで既存の必要とされている福祉事業が充実されると感じる。
- 独居老人が増えているので、独り暮らしの支援策の充実が必要と考える。
- 今後は介護関連ロボット技術もますます発達すると考えられるので、そうしたロボットを活用した施策を考えていく必要があると思う。
- 清掃、公園のトイレが汚いと蜘蛛の巣があり、定期的な清掃、公園器具の修理が必要。
- 徒歩で参加可能な地区での集まり。健康向上の具体的内容に加え、会話ができるグループ活動の支援をしてほしいと思う。
- 孤立しがちな高齢者には、出来るだけ世間から切り離す(離れる)ことなく周囲の声掛けを積極的に取り入れた心掛けが必要なのかと思う。
- 出かけるのに億劫にならないように、公共交通機関利用の環境料金のサポートが必要かと思う。
- 民間企業の家事代行はあるが、料金が高く利用できない。介護保険が利用でき、なおかつ、複雑な手続きをしないで、気軽に利用できる家事代行ヘルパーがあれば良いと思う。
- 健康寿命を伸ばすために、定期的に運動したり、健康観察したりできる場面が身近にあるとよい。
- 民間企業や学校法人による生涯学習事業やスポーツ観戦の事業、人気飲食店での高齢者デー

の事業化など。

- 公共交通が軒並み減便され、自力で出かけようとしても弊害あり。タクシーを自宅に呼ぼうとしても、高齢者で近距離乗車とみなされ配車拒否。病院へも即座に行けない状態。仙台市はバス・地下鉄を減便し、料金も値上げしますます利用離れを生んでいる。免許返納者へのタクシー券等配布する自治体もあるが、仙台市は箱物にばかり税金投入し、健康福祉には劣る自治体である。
- 高齢者同士、あるいは世代間の交流を促進することが重要だと思う。コミュニティセンターなどの「場」を整備することも重要だが、交流するきっかけとなるイベント企画などをNPOや市民団体と共同して実施することも必要だと思う。また、身体等に不自由のある方も参加しやすい場があるとより良いと思う。
- お互いが支えあい暮らしていけるよう、また格差がうまれないように必要な補助が必要と考える。地域での見守りや防犯などの拡充が必要と感じる。
- 老後の生活は誰しも大変だと思う。ましてや介護が必要になった場合に家族は大変で誰もが収入に見合った介護施設に入れるように、施設の増加を促進して頂きたい。例えば、特別養護老人ホームの充実化。
- まずは専門的な知識のある職員の育成と労働環境の整備、充実を図り、高齢者の方々の思いに耳を傾けることが大切ではないかと思う。
- 高齢者だけではなく、障害児や女性、その他現状では弱者側に見られる人々の生きがい、社会参加促進を行う仕組みが必要。高齢者に絞る必要はなく、適材適所に適切に希望者が配置されることが重要ではないか。
- 高齢者の方の自己成長と興味を刺激するため、新しいスキルや興味を学ぶ機会を提供できる事業。
- 高齢者が交流できるコミュニティや場所の提供。また、高齢になっても社会の役に立てるような仕事（若い人、子供たちに何かを教えるなど）の提供。
- 地域での支えあいが必要だと思う。ボランティア活動、助け合い等、高齢者でも元気な方は積極的に地域の活動やボランティアに参加することが大切だと思う。
- 高齢者もそうですが、支える人達の支援を強化しても良さそうだと思う。
- 年金の受給額では生活が立ち行かない高齢者もいると思うので、体が思うように動かなくても衣食住が最低限保障されるようにしてほしい。
- 今回のアンケートにあるようなサービスを知る機会が少ないと思う。市のホームページで年代別など、必要になるであろうサービスを一括検索できると良いと思う。
- 近隣の公園の整備・充実。特に、若者や日本語が不得手な外国人等が皆ルールを守って、老人や赤ちゃん等の社会弱者も安心して楽しく過ごせるように、公園の維持管理を強化して欲しい。とりわけ、自転車走行やスケートボードや野球・サッカー等危険な遊戯の禁止を徹底願いたい。
- 高齢者であっても人の役に立ちたいという気持ちがあると思う。何かをしてあげるのではなく、出来ることを探して、まだまだやれるという自尊心を育む手伝いがあれば良い。
- 高齢者になる前から高齢者の情報を得られると良いと思う。現役の頃から将来自分が高齢になった時どんな風に過ごすかシュミレーションできる時間があると定年後身の振り方に困る

事はないように思う。健康寿命を長くする福祉事業が充実するといいと思う。また高齢者を支える親族に負担にならないような福祉事業もあるといいと思う。

- 行政が対応していく範囲を示した上でそれ以外は自己責任として対応すべきが福祉事業の範囲だと認識をしている。
- 自宅で長く生活するためには通所施設やショートステイの充実だけでなく、高齢者世帯の悩みをすくいあげるケアマネや包括の存在が大きくなると思う。また、認知症についての理解が必要になるため、家族が無理しすぎないように多角的な視点があるといいのかなと思う。施設に入所となった場合でも今の施設は、夏祭りなど地域との交流もあるので、施設のイメージもかわっていけばいいと思う。
- 地域の安全・安心を維持するため、高齢者自身が積極的に地域の小学校、中学校の見守りやパトロールに参加できるように行政主導で啓発啓蒙していただきたい。
- 核家族化した現在、高齢者が若い方と関わるのが困難になっている。行政主導であれば地域で安心して活動ができるのではないかと思う。
- 健康を維持するためスポーツを推進するとか、芸術、音楽など気軽に参加できるプログラムを市民センターで開催することが良いと思う。
- 子育て支援に力を注ぐのではなく、人数が増えていく高齢者支援に今後力を注ぐべきである。
- 本気で考えるなら、公営住宅の充実が一番。住まいが安定しない状態では社会参加も生きがいもあったものではない。「マイホーム主義」を蔓延させることを始め手厚く誘導することを止める。
- とりあえず市の高齢者対策レベルで現実的に考えれば、従来の施策を地道に、本気でやっていくことしか考えられない。何か素晴らしい新規アイデアを否定するつもりはないが、そこだけに期待するのは筋が悪すぎ。
- 「どのような福祉事業」も大事ですが、「どのようにして福祉事業」を進めるのも大事だと思う。
- 介護保険で賄えないサービスがもっと増えてほしい。
- 避難所や公園の整備がされていますが、町内会主体で夏などにプチ祭り等の企画に支援する体制を整備してみたいかがか。孫を呼び寄せる、ご近所さんとの会話・連携等高齢者が自宅外で活躍できる場の提供に繋がるのではないか。
- ハードウェアの整備が必須。障害者からすれば、仙台はバリアフリーが不完全。上記をするにはユニバーサルな都市を目指したい。それが先ではないか。
- 高齢者のみの世帯では、買い物や移動手段の確保が切実なので、その対応策が緊急だと思う。
- 暑い夏、寒い冬が特に高齢者は孤立や引きこもりで、寂しく感じる方が多いと思います。声がけや話し相手を求める一人暮らしの方にそのような活動が定期的にあるといいのですが。
- 外出支援。低賃金タクシーなど、玄関前までのサービスを増やしてほしい。夏の暑い時期、雨などの悪天候、冬の足元が悪いとき、高齢者が外出するのに困難な日はとても多い。
- マイナ保険証の手続き等を例に挙げても、ネット社会に追従できない高齢者が多いのではと懸念する。スマホ等の通信手段を持たない人、ネットそのものを使えない人に対して、支援する場が必要と思う。
- 買い物のお手伝い、病院等への送迎サービスなどの増加・発展。

- スマホを活用した見守り。
- 前提として、セーフティネットの充実だと思う。その上で、フレイル防止等、心身ともに健康維持を重視する事業が必要と思う。
- 小さい映画館やライブ会場などエンターテインメントが楽しめる施設を作る。
- 福祉事業を知らなければ、利用することもできないため、仙台市のやっている福祉事業を65歳となった高齢者全員に冊子として配布してみてもいいか。
- 元気な高齢者はたくさんいるし、まだまだ働ける高齢者もたくさんいると思う。レクとかボランティアレベルではなく、自分が必要とされる場所で生きがいを持って働ける場所、役割が必要だと思う。
- 民生委員以外に市の職員など見回り、見守りがあると良いと思う。
- 子育て世帯が非常に時間の工面に苦労している通学路の見守り(通称旗振り当番)を高齢者ボランティアに全て置き換えることを提案。地域によっては高齢者の方が行なっているところもあるかと思うが、まだまだ保護者が道路に立っているケースが多いかと思う。家族以外の大人と接することで、子どもたち側も学びを得ることもあると思う。また、高齢者も外へ出るきっかけができ、人と言葉を交わす機会が増えることで、健康の増進が考えられる。
- ネットワーク参加の促進と気軽に参加できるツール。
- バリアフリー住宅リフォームの補助金。
- 健診の充実(健診後の生活指導なども含む)。健診からクリニック受診や通院などのサポート。
- 段差のない道路の整備、買い物(重い物とか)の代行、乗り合いバスで送迎など。
- 単に自分のために行う事業メニューを提供するのではなく、高齢者の参加・アクションが子どもの育成にもつながり、同時に高齢者自身の生きがいづくり、自己肯定感につながる事業(EX. 放課後児童クラブなど)
- 「孤独」が一番辛いものだと思うので、定期的に市の職員の方々が家を訪問してコミュニケーションがとれると良いと思う。
- 60 や 65 になったからと急に始まっても馴染めない、年齢性別就労に関係なく、コミュニケーションのとれる場が小さい頃からごくあたりまえにあると、どの年代になっても誰かとつながり易いのではないかと思う
- 行政が管理する農地で農作業が出来るシステム。場所は車を運転してまで行くところではなく、それぞれの地域で通いやすいところにあること。
- 高齢者用住宅を増やしてほしい。公共交通機関を利用しやすくする事業。
- 地域の困り事や相談を担当する行政の方がいると良い。(町内会は地域の人なので地域の相談しにくい困り事がある)
- 1 人暮らし高齢者の支援の充実。核家族化の進行により一人暮らし高齢者は増えているにもかかわらず、地域の見守り体制は現状不十分、かつ、地域によっては見守りを行う担い手も高齢者しかない現状もある。各地域の実状に応じた柔軟な対策が求められると思う。
- 高齢者・若者は関係なしに生きがいは自ら産み出すべきものと思うが、体の衰えにより行動的になれない高齢者もいると思うので、できるだけ小さな地域(町内規模)で行えるレクレーションをしたり、子供との触れ合いの場をもうけたり、受け身ではなくシルバー人材程の器用さがなくとも昔の遊びを教えるなど、自らが発信者となれるような場があるといいと思う。

子供食堂などでおにぎりをにぎる、子供に算数を教えるなどお互いが助け合える場を作ることが何よりの生きがいになると思う。

- 過ごしやすい環境の集会所などで気軽に高齢者が集まれば良いと思う。私が子供の頃には(田舎の方ですが)その様な集会所で、大きな集まりではなくとも気軽に数人が集まり、おしゃべりしていた。今はそういったことがないので、コミュニケーションや情報交換の場もなく、孤立し、室内にこもり、運動不足にもなるように思う。
- 小中学生などの見守りでもっと地域にきずなをつくりたい。正直、今の親は共働きで旗当番はムリがある(小さい未就学児がいるとなおさら)。この暑さで小さな子をおんぶしながらはた当番は、命の危険があるので、親の当番は今すぐ改善すべき。地域のお年寄りや、時間、体力に余裕がある人を、班で動かしては。
- 紫山に住んでいるが、バスの本数が少ないので車が必須。またバス停が遠い。公共交通機関に乗れない高齢者は車がないと買い物に出られない。パークタウン内にかえるタクシーという片道タクシーが無料になるサービスがあるが、片道分の自己負担分を補助して頂けると助かると思う。
- 時代の流れとともにAIの普及、昨今多い特殊サギなどの犯罪への対処に対して知識の習得ができるといい。高齢化社会の中で、少しでも皆で助け合って安心した暮らしができるように、民間の方からでも役所の方でも詳しい人が高齢者向け講座を充実していく必要があるのではないかと思う。
- 免許の返納など進める中で足がなく行動範囲は年々縮小されているため移動手段の拡大するためサービスを検討して欲しい。ボランティアなどまかせっきりにせず仙台市がしっかりと対応してほしい。年金が少ないものにとって足がないことはどれだけ大変か理解してほしい。物価が上がることで生きることがぎりぎりの方々が多いと感じる。
- 子育てと同様に“手をかけずに目をかけて!!”の細やかな目配りの出来る地域と行政を上手なパイプラインで継ぐ福祉事業を望む。たとえば地域ごとに行政機関よりの担当者を数名配置し、責任を持って地域高齢者個々の見守りをして頂きたい。(地域包括センターは何故か利用しにくい)
- 見守りや生活支援、社会参加へのきっかけ作りは大切。見守りや生活支援については、現状よりITを活用していくべき。今後高齢者となる方々はITを少なからず使用できる方々なので、スマホ、タブレットによる見守りや、ネットを活用した生活支援を行うべきと思う。また、今後、住宅での介護が増えていくと思われるため、訪問介護や遠隔診療、郵送による投薬配送などに力を入れる必要がある。社会参加としては、行政として行うイベントが少ないように思う。他県に目を向けると、もっとイベントを行う所はある。
- 病院とスーパー等の買物への送迎。病院は指定された病院に地域で何人かまとめていきたい人を送迎。スーパーは乗り合いタクシーの様なサービスをもっと簡単に手軽に利用できるように。また1人暮らしの人が住む専門のアパート(年金で借りられるくらいの)。市営・県営は不便な場所にあることが多いので。
- 高齢者の方と子供たちがふれ合える場を地域で積極的に作ってほしいと思います。ひとり暮らしの高齢者もふえてきているので、地域や行政が連携していくことが大切だと思います。具体的には安否確認、送迎、買い物代行、家事全般の補助など気軽におねがいできる

サービスの充実です。

- 一人暮らしの高齢者宅にはたまに来る親族だけで、孤独に過ごしている方が多いと思う。認知症予防のためにも、人的コミュニケーションが大切と考える。そのためには、地域の町内会がミニ旅行やグルメ外食などの企画もよいのでは。実行には行政の支援があると実現できるのと期待する。
- 社会参加などの福祉とは言うが、まずはじめに、そういう福祉事業を探すことが祖母は出来なかった。近くに家族が住んでいるので大丈夫だったが、いない家庭もあると思うので「ココ、に行けば、又はサイトを見ればすぐに分かる!とゆうような所をつくってほしい。
- 毎日通勤していると恐らく高齢者のお宅と思われるお宅の植木(垣根)が伸び放題になって手入れが行き届いていないところが目につく。歩道にはみ出していて通行の邪魔だし、薄暗くて防犯上もよくない。また伸びすぎてしまうと切ってもかっこ悪くなってしまふ。草むしりも含めて安価で利用できるサービスがあればよいと思う。
- 暑い日にスーパーに行くとき買い物するでもなく涼みにきている老人が目立つ。生活保護世帯も含めてエアコンの補助を出すべきだと思う。
- 定年=老後というスタイルが崩れ、年金支給時期も年々遅くなってきているので、生きがいうんぬんよりも、どうやって生活していけるか、どうやって人間として最低限の生活を維持できるか、衰えていく身体を労りながら暮らしていけるか、経済的なバックアップが必要と考える。今の保険は入院しない限り保障されない。
- 現在の社会において高齢者はとても生きやすいと思う。社会参加も進み、住み慣れた地域で暮らしていくのは行政のサービスを利用していけば十分可能だと感じた。これでも足りないと思う高齢者の皆様には、ぜひ、民間のサービスを利用していただければと思う。
- 今回、とりあげられた各事業が、十分に浸透しているかは、とても疑問に感じる。「公報紙に載せていますから」という回答かと思うが、[その載せたモノさえ解読不可能な市民も大勢いる]コトを十分に周知徹底願う。どんな行政サービスにおいても、[家族ありき][身内ありき]を強く感じるし、みてとれるが、今の時代だからこそ、さまざまな事情(環境)から、孤宅(独り暮らし)の方が多くおられることを、もっと加味した姿勢(制度方針)が必要と考える。やはり人と人とのコミュニケーションが一番大切重要と考える。日々充実感が持てる生き方は個人の認識によるものであるが、補助的な福祉事業を通年基準まで市民が納得する所まで近づけるか、促進する努力継続する事である。
- 介護保険を使用している人だけでなく健康な高齢者も一緒にできるプログラム、参加できる場所を必要とする。地域の協力(若い人々も参加)ボランティアでささえあって行ける環境作りをする。社会でも、高齢者のことをあまり重要としていない中、子育てが大事なことはわかるが、介護で職をやめなくてはならない若者がいることも考えてほしい。
- 身近な高齢者をみていて、デジタル化についていけない方が多くいる。一人暮らしが増える中で、行政からの書類を見るのも大変な方もいる(祝金が88歳の方も、書類の文字が小さく、コピーをとるなど、一人暮らしの高齢者には大変)。そのような部分的な配慮も必要だと思う。